



西国三十三所開基
徳道上人御廟所
番外
法起院

法起院

西国巡拝開基・徳道上人御廟所

極楽はよそにはあらじわがこころ

おなじ蓮のへだてやはある

当札所の御詠歌（上人御詠歌）は、大変に意味深く詠じられています。

（極楽は遠くにあるものではありません。あなたの心の中に求めなさい。この世に咲く蓮の花と、あの世の蓮の花とはともに同じ蓮の花です。決して違うものではありません。）

今日の言葉で言えば、自分をじっくりと見つめよという事ではないでしょうか。

一方、四国八十八ヶ所巡礼をお始めになった弘法大師様のお言葉に、「それ仏法はるかにあらずして心中に近し」という部分があります。共に、悩める人々を救うために求道の道を歩まれた両大徳のおっしゃんとするところは、同じであったということに、今さらながら驚嘆するものであります。

観音巡拝という大願に情熱をお傾けになった上人の熱烈な信仰心に想いをお馳せになつてはいかがでしょうか……。



上人昏脱ぎの石

◆法起院略歴

天平七年（西暦 七三五年） 徳道上人創立
元禄八年（西暦 一六九五） 長谷寺化主英岳僧正再建、長谷寺開山堂として現在に至る

◆法起院年間行事

- | | | |
|-------|----------|----------|
| 【一月】 | 元旦法要 | 一日 |
| | 徳道上人廻向 | 二日 |
| | 仁王会 | 一日～七日 |
| 【二月】 | 節分会 | 三日（四日） |
| 【三月】 | 徳道上人命日廻向 | 二日 |
| | 彼岸会 | 十八日～二十四日 |
| 【四月】 | 釈尊降誕会 | 八日 |
| 【六月】 | 弘法大師降誕会 | 十五日 |
| 【八月】 | 孟蘭盆会 | 十三日～十五日 |
| | 地藏会 | 二十四日 |
| 【九月】 | 徳道上人誕生会 | 十八日 |
| | 彼岸会 | 二十日～二十六日 |
| 【十一月】 | 三界万霊慰霊法要 | 三日 |
| 【十二月】 | 除夜法要 | 三十一日 |

観音軸の開眼法要を承ります。（郵送でも結構です）
開眼祈祷料 一〇、〇〇〇円

西国巡拝開基
徳道上人御廟所

法起院

（真言宗豊山派）

〒633-0112 奈良県桜井市初瀬776番地
TEL.0744-47-8032 FAX.0744-47-8052
ホームページ <http://www.houkiin.or.jp/>

◎巡礼のふる里

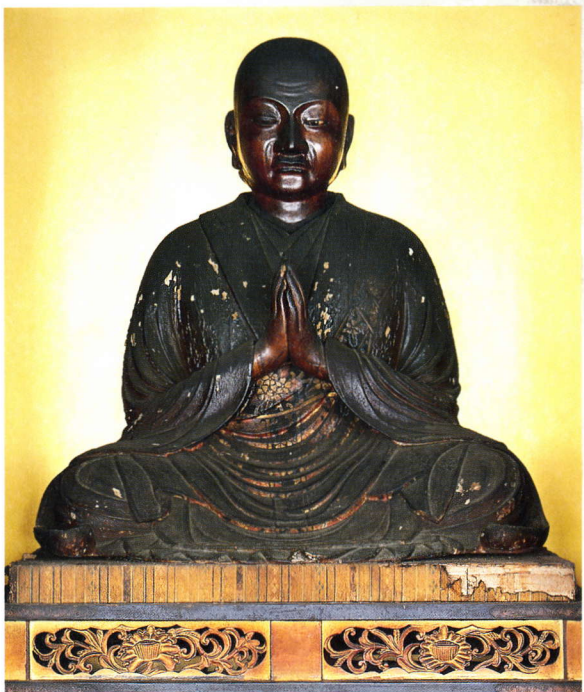
白い経帷子きんかたびらをまとい、長い杖をつき、ご詠歌を唱えながら三十三ヶ所の観音菩薩の霊場に詣で、納経印を受ける西国三十三ヶ所霊場巡礼の風習は、養老二年（西暦七二八年）に徳道上人によって始められました。この巡礼の人々の群れは、色々な不安に満ちている現代、一千年の歳月が経ったにもかかわらず、少なくなるところかますます多くなろうとしています。

徳道上人は斉明天皇の御宇二年（西暦六五六年）、播磨の国矢田部の里で誕生なさいました。その容貌は気品に満ち、眼は真澄鏡まじやうきやうのように美しく清らかで、髪の毛は梳とれば滴たるように黒く艶やかに光り、深くたたえられた優雅さと聡明さに里人達は目を見張ったそうです。

成長されるにしたがって読書を好み、手に筆を持つことを無上の楽しみとし、神童との噂の中で連日精進をお重ねになりました。しかし、突然起った不幸は上人の父を奪い、そして数年の後には母も不帰の客となったのです。仏の道を極めることこそ人間に生まれた最高の道であり、亡き父母の菩提を弔うことが今の自分にとっては、真実の報恩であるうと大悟徹底された上人は、当時我が国随一の大名僧であった大和長谷寺の道明大徳との間に師弟の契りをお結びになりました。

約十年間の修行の後、智道兼備の名僧とられた上人は、大和の長谷寺、鎌倉の長谷寺をはじめ諸国に四十九ヶ所の寺院を建立されました。その中でも大和の長谷寺では本尊大観音を御造立されました。

前記の養老二年の春、突然の病のために仮死状態にあつた上人は、夢の中で閻魔大王にお会いになり、悩める人々を救う為に一三三ヶ所の観



徳道上人像

音菩薩の霊場を広めるように委嘱され、そして三十三の宝印を与えられて仮死状態から解放されました。上人は三十三ヶ所の霊場を設けましたが、人々は上人を信用しなかつたので、やむなく宝印を摂津中山寺にお埋めになつたと伝えられています。

二百七十年後の永延二年（西暦九八八年）に、花山法皇がこの宝印をお振り出しになり、今日の三十三ヶ所を復興なさいました。

当法起院は上人が晩年隠棲されたところで、本尊は上人ご自作と伝えられる上人尊像を奉安しています。香煙でくすぶつた茶褐色のお顔に、上人のお姿をこ想像ください。

本堂の左側には「上人御廟十三重石塔」があり、上人が晩年当院の松の木の上から、法起菩薩と化し去つたといわれ、当院の名前もそこからつけられました。

上人が松の木にお登りになつたときの、「上人杓脱ぎの石」と称するものも残っています。

この石に触れると願ひ事が叶うと伝えられています。



本堂（開山堂）



上人御廟十三重石塔

※上人のご廟所は門前町を少し下がった南側にある。正しくは「法起院（ほうきいん）」と称し、ささやかなお堂と、石塔が崩れたままで残っている。上人が閻魔大王の啓示を受け、巡礼を思い立つたのは、ここであろうか。ここでなくても、こんな庵室だつたに違いない。七堂伽藍が美々しくとどつた長谷寺より、この寂びれたお堂の方が今度の旅では印象に残った。